

番号	氏名	抱負
21	本間 龍夫	私はJIRA(一般社団法人日本画像医療システム工業会)の会員として、JSRTの会員のためにJIRA側から役立つように、また協力活動をしていきます。具体的にはJIRAの副会長として、また中小メーカーの集まりの企業振興委員会副委員長として活動していますので、その活動を経てJSRTへの協力をしていきます。また理事として二期目に立候補しますから責任も感じます。
22	市田 隆雄	このたび理事に立候補いたします。私は臨床現場に務める技師として31年を過ごしております。この間、血管撮影での装置開発・改良を中心に活動してきました。その後放射線治療のマネジメントを務め、現在は病院全体の運営を見る目線で放射線部を中央部門として良好稼働させることに努力しています。今日の私達はメディカルスタッフと称される時代となり、チーム医療の名のもと最適な放射線技術の提供がいつそう求められることとなっています。そのためには国際化や高度性のみならず、初学者の皆様まで広く魅力溢れる学術活動の提供が重要と理解いたします。総合的に培ったマネジメント能力のもと、若い方々の活躍を第一番に考えて、精一杯に尽力たく存じます。第70回総会学術大会時、実行委員長を務めましたこと、そして二期に渡り企画委員会委員を務めていますことも力強い礎になると感じております。何卒に宜しく願い申し上げます。
23	小野口 昌久	平成27・28年度役員立候補致します金沢大学の小野口と申します。まず、他学会との連携を強め、系統的横断的な研究や卒後教育をさらに推進すべきと考えます。特に、核医学分野は他の分野と異なり独自の専門学会を複数持っている点でその意義は大きく、核医学全体として捉えるべき内容、たとえば、画像標準化、読影補助、ガイドライン作成などは本学会と専門学会間が共通認識で参画し、専門技師認定セミナーやPET施設認証セミナーなども共催の形で情報を共有すべきと思います。本学会は多くの分野を有している環境を利した系統的横断的な内容、かつ他の分科会や各部会との共催で企画、立案ができることが強みと思います。また、専門学会と異なり、本会員はローテーションの技師も各専門分科会に出席しやすいことから、既存の核医学画像セミナーなど、初心者から中級者を対象とした卒後教育もさらに強化すべきと考えます。以上、宜しくお願い申し上げます。
24	片瀨 哲朗	本学会は放射線技師最大の学術団体であり、これまで多くの実績を残しています。これは諸先輩方のお陰ですが、これからも永続的に学会を発展させていくにはどうすればよいのか、最近考えるようになりました。私見ですが、今後の成長に重要なのは組織の柔軟性ではないかと思っています。それは構成する人が多様性を持ち、集団の中で様々な意見を交わし、いろいろな役割を担うことで、より強い組織が形成されます。そのためには、皆同じ考えではなく多面的に考えられる組織でなければなりません。ある一定の外力が作用すると割れてしまうガラスのような組織であってはならないのです。本学会は利害関係のない会員によって構成されており、これはまさしくゴムのような組織です。しかし、これまでのように右肩上がりの発展は難しく、組織の柔軟性を持って切り抜けて行く必要があります。そのために、私の知識と経験を生かし、本会の一助になりたいと考えています。
25	渡邊 浩	核医学分科会委員を平成11年から8年間務め、核医学技術の発展に努力してまいりました。また、関係法令等検討小委員長を平成17年から務めて10目になります。この小委員会は様々なパブリックコメントに対して専門分野の学会としての責務を果たすべく本学会の意見を述べてきました。さらに、平成24年4月1日施行の障害防止法改正では、医療に重大な障害を及ぼさない合理的な管理基準を取り入れるため、医療全体の中心となって活動しました。特に、放射線治療の分野では学会標準を作成する委員長を務めました。現在、サイクロトロン放射化物の合理的な管理を目指しています。本学会の重要な使命の一つは放射線診療に係る法・基準に専門学会として提言していくことです。これまで培った経験を活かして本学会が公益法人としての社会的責務を果たすために貢献したいと考えております。